

# 新任あいさつ

榎 一江

4月から専任研究員になった榎一江です。愛媛大学法文学部経済学科卒業後、1年間の教員生活を経て九州大学大学院比較社会文化研究科に進学し、2005年に博士（比較社会文化）という学位を取得しました。研究領域は近代日本の労働史で、これまでは主に経営史料を利用して、「経営」と「労働」の歴史について考えてきました。その成果は、『近代製糸業の雇用と経営』（吉川弘文館、2008）として刊行されました。これは、製糸工女の働き方を郡是製糸株式会社（現ゲンゼ）の事例を通して考察した博士論文がもとになっています。この間、2003年から日本学術振興会特別研究員（PD）や研究拠点形成特任研究員として東京大学で5年間研究に従事し、神戸大学大学院経営学研究科准教授を経て着任しました。

大原社会問題研究所では、WEBサイト・コンテンツの作成、『日本労働年鑑』の編集作業、シンポジウム企画・開催の実務を担当します。もちろん、歴史研究者ですから、所蔵資料の収集・整理・保存に尽力するとともに、それらを活用して研究を進めたいと思っています。“大原社会問題研究所90年の歴史上、初の女性専任スタッフ”という触れ込みですが、そのようなめぐり合わせに感謝しつつ、「いそがない、がんばらない、なまけない」をモットーに日々過ごしてまいります。どうぞよろしく申し上げます。

（えのき・かずえ 法政大学大原社会問題研究所准教授）

## 大原社会問題研究所へのご寄付にお礼申し上げます

この間、「リーディング・ユニバーシティー法政」募金の一環として大原社会問題研究所宛の指定寄付金を募集いたしました。お陰様をもちまして、08年度末時点で21件105万円の募金をお寄せいただきました。3月はじめからの募集という短い期間だったにもかかわらず、多額のご寄付をいただいたことに、厚くお礼申し上げます。

お送りいただいた寄金につきましては、研究所創立90周年に当たっての関連事業をはじめ、研究所活動の遂行・活性化などのために、大切に活用させていただきます。

今後も引き続き寄付金の募集を行っておりますので、さらに多くの団体、個人の方々からのご寄付をお願いする次第です。なにとぞ、よろしく願いいたします。

2009年4月

法政大学大原社会問題研究所  
所長 五十嵐 仁